



名古屋市立大学大学院
経済学研究科教授

角田 隆太郎氏

オープン カレッジ

スマホのアプリ開発、さまざまなインターネット・ビジネス、医療や福祉サービス、コミュニティ・ビジネス、まちおこし、環境問題など、企業が活躍する場が増加している。事業を起す「起業家」を含めて、企業や地域、社会

の「変革のきっかけをつくる人」たちを「企業家」と呼んでい

「長寿企業」と呼んでおり、日本には世界でもっとも多くの長寿企業が存在している。その名古屋と京都にそ

規開業数、廃業数の割合を、「開業率」、「廃業率」と呼ぶが、開業率と廃業率は、地域間で違いのあることが知られている。名古屋と京都は、この開業率と

廃業率が、長年にわたって、ともに全国平均よりも低く、また開業率が廃業率を下回っている。名古屋の企業は堅実であるということもでき

るが、企業数は減少している。長期に存続している企業を

京都は、戦後、京セラ創業

地域と企業家

応援する風土が好循環生む

者の稲盛和夫氏を筆頭に数多くの企業家を輩出してきた。そして企業家の輩出は、一時期停滞することがあっても、回復し、戦後、少なくとも4回の企業家輩出の波があった。歴代の商工会議所の会頭もこれらの企業家が務めてきた。

京都には繊維産地の西陣や友禅、陶磁器の清水焼などの伝統産業が存在し、これらの伝統産業から多くの企業家が生まれている。古くは、島津製作所は仏具製造業、京セラや村田製作所は陶磁器製造業から生まれてきたし、近年では、ウペポ・ディー・マジは、友禅染の技術から、

インクジェット・プリンターが、京都から企業家を輩出したことによって染色を行う技術を継ぎ、それによって京都は1200年の歴史を持ちながら、日々革新を行うことにより、化石の町ではなく生きた町であり続けているのである。

名古屋は、京都と同じように、繊維産業や陶磁器産業の集積地であるが、企業家の輩出が停滞していることで、京都から輩出した企業家の多くが、企業が成長し大きくなった後も、本社を京都に置き、グローバルな視野を持つて、国際的に事業展開している。企業家を応援する地域の風土をつくり、会社が成長し大きくなった後も、企業家を育てるためにさまざまな活動を行っている。企業家は企業家にしか育てられないのである。こうした活動がある。

